新潟市潟環境研究所　平成２８年度第２回定例会議（概要）

第２回定例会議では、「潟」を地域の宝として守る取り組みの事例を知り、潟を含む地域の現状と課題を共有することを目的に、潟の現地視察や周辺の文化的・歴史的な施設（神社、博物館）の見学を行いました。

日時：平成２８年５月２６日（木）午前９時～午後５時１５分
場所：山の下閘門排水機場・十二潟・高森稲荷神社（大ケヤキ）・北区郷土博物館・内沼潟・内沼神社（時計塔）・山サンベ・浜サンベ・松浜の池

【山の下閘門排水機場】
昭和４２（１９６７）年に完成した山の下閘門排水機場は、通船川・栗ノ木川の水面を下げ、信濃川からの水が流れ込まないようにする役割を持っています。通船川の水面の高さは、信濃川より約２メートル低くなっており、閘門は船が通船川と信濃川を行き来できるようにする施設です。
【十二潟】
山崎敬雄さん（潟環境研究所外部相談員／岡方コミュニティ委員会 会長）から十二潟の概要と岡方コミュニティ委員会の十二潟での取り組みについて説明を受けました。
「潟は昭和 35 年頃までは、泳いだり、ヒシ採りをしたり、魚釣りをしたりして子どもの遊び場だったが、昭和の終わり頃からごみの不法投棄が進んだ。岡方地区コミュニティ委員会が不法投棄対策として一斉清掃に取り組むようになった」とのこと。
現在は、岡方第一小の児童と自然観察会を行っています。
【北区郷土博物館】
北区郷土博物館は福島潟を中心とした低湿地帯での暮らしで使われた舟や漁具、農具などの民具をはじめとする民俗資料が展示され、当時の様子を知ることができます。
【内沼潟】
髙橋剛さん（潟環境研究所外部相談員／内沼自治会 会長）から内沼潟の概要と内沼潟共有者の会がゴミの不法投棄の防止と潟の公園化などを目指して立ち上げられた経緯などの説明を受けました。また、長谷川文夫さん（内沼潟共有者会 会長）からは、「子どものときは、内沼潟で蓮根堀りやライギョ釣りをしていた。内沼潟をいまの子どもたちに残していきたい」といった話を聞かせていただきました。
内沼集落には内沼神社があり、内沼潟の開発が１７３０年頃はじまったことを示す、「綿向神社勧請石柱（わたむきじんじゃかんじょうせきちゅう）」が保存されています。
【松浜の池】
木村廣衛さん(松浜コミュニティ協議会地元学部会副部長)から松浜の池の説明を受けました。「地元の人はもともと、松浜の池にあまり関心がなかった。オオモノサシトンボやオオセスジトンボなどの希少なトンボ類が生息していることがわかり、池を守っていこうということになった」とのこと。松浜小学校の３年生が毎年１回、自然観察会を行っています。

山の下閘門の扉が開き中に水が流れ込んでくる。

貯木場へ向かう筏（いかだ）が閘門を通過する。

十二潟の観察デッキ付近。

北区郷土博物館学芸員より説明を受けました。

内沼潟の端を歩いてみました。

松浜の池で木村さん（中央）から説明を受けました。

昭和２（１９２７）年３月、長浦村青年会内沼支部競技会優勝を記念して、青年会内沼支部が建設した時計塔。

当時の様子を再現しようと、新しく整備された時計塔の前に集合。